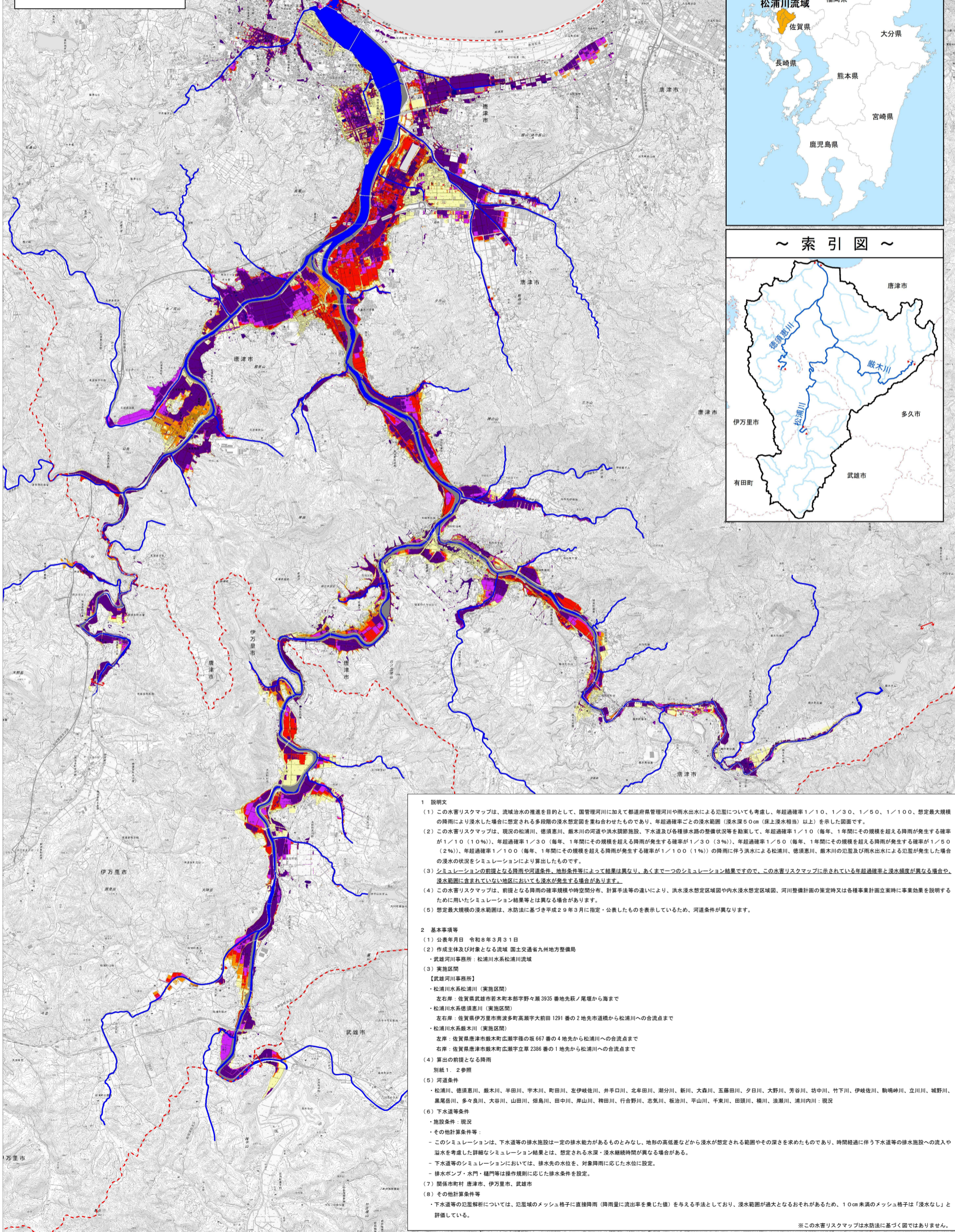
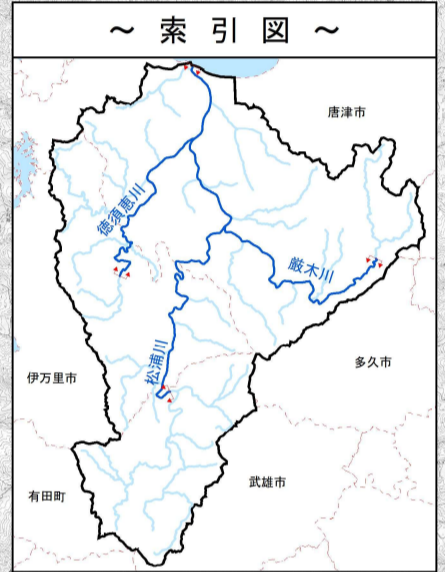


松浦川水系 内外水統合の水害リスクマップ 【現況河道】



- 凡例**
- 高頻度 (1/10)
 - 中高頻度 (1/30)
 - 中頻度 (1/50)
 - 中低頻度 (1/100)
 - 想定最大規模
 - - - 市町村境界
 - 浸水想定区域の指定対象となる洪水予報河川

浸水深50cm(床上浸水相当)以上の浸水が想定される範囲を表示



1 説明文

- (1) この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、国管理河川に加えて都道府県管理河川や雨水出水による氾濫についても考慮し、年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100、想定最大規模の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定区域を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲(浸水深50cm(床上浸水相当)以上)を示した図面です。
- (2) この水害リスクマップは、現況の松浦川、徳須恵川、厳木川の河道や洪水調節施設、下水道及び各種排水路の整備状況等を勘案して、年超過確率1/10(毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/10(10%)、年超過確率1/30(毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/30(3%)、年超過確率1/50(毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/50(2%)、年超過確率1/100(毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/100(1%))の降雨に伴う洪水による松浦川、徳須恵川、厳木川の氾濫及び雨水出水による氾濫が発生した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
- (3) シミュレーションの前提となる降雨や河道条件、地形条件等によって結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水程度が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。
- (4) この水害リスクマップは、前提となる降雨の確率規模や時空間分布、計算手法等の違いにより、洪水浸水想定区域や内水浸水想定区域、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果等とは異なる場合があります。
- (5) 想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき平成29年3月に指定・公表したものを表示しているため、河道条件が異なります。

2 基本事項等

- (1) 公表年月日 令和8年3月31日
- (2) 作成主体及び対象となる流域 国土交通省九州地方整備局
・武雄河川事務所：松浦川水系松浦川流域
- (3) 実施区域
【武雄河川事務所】
・松浦川水系松浦川(実施区域)
左右岸：佐賀県武雄市若木町木野字野々瀬3935番地先萩ノ尾堰から海まで
・松浦川水系徳須恵川(実施区域)
左右岸：佐賀県伊万里市南波多町高瀬字大前田1291番の2地先市道橋から松浦川への合流点まで
・松浦川水系厳木川(実施区域)
左右岸：佐賀県唐津市厳木町広瀬字瀬の坂667番の4地先から松浦川への合流点まで
右岸：佐賀県唐津市厳木町広瀬字立草2386番の1地先から松浦川への合流点まで
- (4) 算出の前提となる降雨
別紙1、2参照
- (5) 河道条件
・松浦川、徳須恵川、厳木川、半田川、宇木川、町田川、左伊岐佐川、井平口川、北牟田川、瀬分川、新川、大森川、五藤田川、夕日川、大野川、芳谷川、坊中川、竹下川、伊岐佐川、駒崎川、立川川、城野川、黒尾岳川、多々良川、大谷川、山田川、畑島川、田中川、岸山川、神田川、行合野川、志気川、板池川、平山川、千栗川、田頭川、橋川、浪瀬川、浦内川：現況
- (6) 下水道等条件
・施設条件：現況
・その他計算条件等：
- このシミュレーションは、下水道等の排水施設は一定の排水能力があるものとみなし、地形の高低差などから浸水が想定される範囲やその深さを求めたものであり、時間経過に伴う下水道等の排水施設への流入や溢水を考慮した詳細なシミュレーション結果とは、想定される水深・浸水継続時間が異なる場合がある。
- 下水道等のシミュレーションにおいては、排水先の水位を、対象降雨に応じた水位に設定。
- 排水ポンプ・水門・樋門等は操作規則に応じた排水条件を設定。
- (7) 関係市町村 唐津市、伊万里市、武雄市
- (8) その他計算条件等
・下水道等の氾濫解析については、氾濫域のメッシュ格子に直接降雨(降雨量に流出率を乗じた値)を与える手法としており、浸水範囲が過大となるおそれがあるため、10cm未満のメッシュ格子は「浸水なし」と評価している。

※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。